



県北教育事務所 社会教育だより

# つながれ KENPOKU

令和4年10月6日 発行

今号は、前号に引き続き、公民館訪問（福島市学習センター訪問）についてお伝えします。それぞれの学習センター事業の中から特徴的な取組等を掲載しました。参考になれば幸いです。

## 福島市学習センター訪問

7月15日（金）信陵学習センター      7月22日（金）松川学習センター  
7月25日（月）吾妻学習センター      7月29日（金）飯野学習センター

### 【信陵学習センター】



LINE やインスタグラムを活用して事業を展開しています

事業の実施案内等の情報を LINE やインスタグラムを活用して発信しています。そのため、高齢者の方には、職員が直接、LINE 登録の仕方を教えています。他の学習センターと合同の交流会や、他学級間での交流にも SNS 等を活用しており、利用団体対抗の大会等、相互交流による「つながり」づくりも積極的に行われています。

### 【松川学習センター】



「地域と学校が共に Win Win の気持ちが味わえるように！」充実した地域学校協働活動を展開しています

生涯学習指導員のコーディネートにより地域住民や学習センターの登録団体を地区の小学校や中学校に紹介しています。それにより、松川町発信プロジェクト、生徒会活動における「地域交流活動：松陵異世代サミット」への協力など、地域と学校が一体となって子どもを育てる取組を推進することができています。

### 【吾妻学習センター】



高齢者学級が充実しています

住民の高齢化が地域の課題となっていますが、自主性をもって活動する高齢者学級が充実しています。その背景には、福島市老人福祉センターと連携し、高齢者学級の参加者を送迎してもらうことで、高齢者に学習の場を提供できるような取組がありました。市民講座として開催する「満月会」は大正時代から続く、歴史と伝統のある学習会です。

## 【飯野学習センター】



将来、地域のリーダーとして活躍する人材を育成しています

サマースクールにおいて中学生が小学生の学習を手助けしながら一緒に学んでいます。

このような取組をしてくことで、リーダーとしての資質を向上させるだけでなく、将来、青年教育や成人教育に参加するなど地域のリーダーとして育っていくことも期待できます。

## 学習センター訪問（前半）を終えて

令和4年度上半期は、福島市内6つの学習センターを訪問しました。

それぞれの地域、住民のニーズに応え、各世代に合った事業や関係諸機関との連携による事業などを工夫して展開している様子を伺うことができました。

また、昨年度に続き、コロナ禍において様々な制限がある中で、学びを止めないために試行錯誤をしながら運営をされていることがよく分かりました。

下半期は福島市以外の3つの自治体を訪問します。公民館運営に関する有意義な話合いができるように準備を進めています。



## 話 題 の コ ー ナ ー

### 社会人の学び直し「リカレント教育」を「生涯学習」で！

リカレント教育＝学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと

現代社会において、公的な機関における学び直しを希望する方々が増えています。特に、外国語や医療・福祉、歴史・地理に関する知識を得たいと思っている方々が多いようです。

そこで、公民館や学習センターでは・・・



資格取得につながる講座や職業上必要な知識・技能に関する学びなどを成人教育の講座に取り入れることで、若者や働き盛り世代の学習意欲に応えることが期待されますね。